

①米軍のインドシナ侵略一ヶ月後の情勢について

全市大の学生諸君、米軍がカンボジアへ侵略を開始して以来一ヶ月にとうとうしている。そしてこの間、米国内の反戦斗争の高揚とそれをめぐる米政府指導部内の意見の相違、米軍の侵略をめぐって再び露呈した中ソの方針の対立。ジャカルタの「アジア会議」でカンボジア問題を検討するにのめり込んだアジアの反共諸国。そして我々日本の政府は米軍のカンボジア侵略を最初に支持し、そして「アジア会議」に自らイニシアチブをとりつつこのインドシナ状態をめぐって展開されている諸々の動きの中でも、とりわけ重要な意味をもっている「アジア会議」について我々の立場を明らかにしておく。

(2)「アジア会議」の持つ意味について

インドネシアのマリク外相によって呼びかけられ、日本、韓国、タイ等「アジア反共諸国」の参加により開催された「アジア会議」は、最終日に共同コミュニケを発表した。その内容、①カンボジアの主権、中立、統一、領土保全のため、すべての戦争行動を直ちに停止され、すべての争いを平和的手段で解決すべきである。②すべての当事者は、自国の内政に干渉しない。③一九五四年のジュネーブ会議の参加国とすべての関係国は公正で平和的、効果的な解決のため、国際会議の早期招集について合意に達するよう勧告する。④今回の会議に参加した各国代表は日本、マレーシア、インドネシア、三国外相に対し、前記の③④を実施する方途について関係方面と緊急に協定するよう要請した。(毎日新聞五月一八日)という内容である。一見中立的立場に見えるこのコミュニケの内容はしかしながら米軍のカンボジア侵略を後から支援しようとしている。何故か、そこにはロンノル政権がはたしてし的に認めようとする意図がにじみている。ロンノル政権こそは北ベトナム軍や民族解放戦線への弾圧を行なうに張本人であった。アメリカやロンノル政権がこのコミュニケを支持したのはこのことと当然と言える。次にこの会議で日本政府が積極的にイニシアチブをとったことである。戦後二五年間、自国の資本を蓄積した日本資本主義は、このアジアの出来事一環まり行くアジアを対して何らかの立場を占めるを得ないのである。そして当面は「中立」等の立場で国内の中心者、学生の階級意識を眠らせておきたいが、中立的な立場には自らの軍隊をもって暴力的にアジア侵略を開始しねばならないと言つ立場に日本資本家階級は位置している。

全市大の学生諸君、

安保中絶斗争委員会に結集し、我々の歴史的、社会的立場を明らかにしつつ五、二九インドシナ反戦斗争と闘おう。

米軍のインドシナ侵略一ヶ月後の情勢について

学生は統一行動に起すべし